2018（平成 30）年 10 月 10 日
「西夏文字の、いくつかの左下要素の筆画」
発表者：荒川慎太郎（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授）

本発表では西夏文字の字形学的な研究を行った。チベット・ビルマ語派の死言語、西夏語を表記した西夏文字。その構成要素の中に、カタカナの「ノメ」「ノノメ」を上下に配置したような字形（3 画・4 画）がある。これらの上部に、漢数字の「一」のような横棒を加えた字形もある。「一ノメ」「一ノノメ」を上下に配した字形（4 画・5 画）と考えられてきたが、実際は「一くノ」「一ノくノ」（3 画・4 画）のように見える。西夏語仏典からこの類の字形を調査すると、上の例ならほぼ例外なく、「ノメ」「ノノメ」は単独ならそのまま、上部に横棒を持つ場合は「一くノ」「一ノくノ」のような筆画になることが明らかになった。一方、このような現象が見られるのは、「左下」に単独で位置した場合に限られることが分かった。結論としては、西夏文字のいくつかの左下要素について「くノ」型筆画を認め、関与条件として上部の横棒「一」の存在を主張した。